広報ただみ

11月号
2026
No. 678
令和8年11月10日



今月の表紙

【只見線全線運転再開４周年】

１０月１日、ＪＲ只見線が全線再開通から４周年を迎えました。当日は記念特別列車が走り、ＪＲ只見駅に集まった町民が横断幕を掲げ、小旗やうちわを振って乗客を歓迎しました。駅前では甘酒の振る舞いが行われ、訪れた乗客をおもてなししました。

≪特集≫
森林と生きる …… 2～7
ふくしま駅伝 …… 8～9
うまいもんまつり …… 10～11
≪News＆flash≫ …… 12～14
≪町の話題≫ …… 15～18

Tadami Biosphere Reserve
只見ユネスコエコパーク

特集　森林（もり）と生きる

只見町は町の９割以上が山林に占められています。この豊かな森林資源を有効に利活用していく仕組みづくりが求められています。一方で、身近なブナ林が少ないというユネスコエコパークの課題もあります。町では今年４月に自然首都推進室を新設し、新たな林業施策を展開しています。今回は薪エネルギー事業の現状と事業を担う事業者や「林業」という仕事についても紹介します。

1 薪エネルギー事業

森林を育成するために
間伐した木材を薪に加工して
熱エネルギーとして利用する





スギ林での間伐と
木材の搬出





薪ステーションで
加工して保管





薪ボイラー棟で
熱エネルギーとして利用



只見町の森林
（深沢地区）



2 ぼくらのブナもり プロジェクト



小学生がブナを植樹・育成して身近なブナ林をつくる

詳細を「広報ただみ１２月号」に掲載予定です。



3 ぶなのもり こども園の新築



町産材を使った公共施設の建設を計画中

今後、詳細を「広報ただみ」に掲載予定です。

山で切られた木が薪になるまで——

只見町は「森林と生きる町」。町では、森林を育成するために間伐された木材を薪に加工し、温泉施設のお湯を温めるために活用しています。

令和6年度には荒島集落、令和7年度は只見牧野利用農業協同組合にご協力いただき、これまで十分に活用されてこなかった森林資源が、地域の熱エネルギーとして利用され始めています。ここでは、事業の流れと地元の方の声を紹介します。

1 候補地を選定・確認する



各集落で育成が必要な森林を調べ、間伐材の運び出し易さなども考慮して候補地を選び、実際に現地の森林を歩いて確認します。

2 所有者を調べる



候補地が決まったら、その範囲一帯をまとめて間伐できるように、森林の所有者を確認します。所有者不明や未相続の土地は間伐できないため除外します。

3 集落に説明する



間伐する森林とその所有者を調べたら、地元集落で事業説明会を開きます。どのように間伐するか、運び出した木から得られる収益をどのように還元するかなどを説明します。

荒島集落

星 庄允（しょういん）さん

集落の各戸がスギ林を持っている。自分の家の分は自らの手で刈り払いをして管理していたな。自分はスギの苗木を背負って山を歩いた世代。いまはスギの木が売れないし、貰ってもらえない時代だから、わざわざ刈り払いしないよな。

町で道路沿いのスギを伐ってもらって良かったな。若い世代は木に未練はないと思う。自分は親の世代から植えて管理してきたから「あ～燃やしてしまう……」という気持ちもある。けれど、荒島はすぐにまとまる集落だから、町の説明を聞いて、今回もまとまったな。

同じ面積でも伐る本数にバラツキがあって、そこはよく町と事業者と集落で協議、相談してもらってやってほしいと感じたな。それから、一番よいのは何年かに一度、道路から数メートルを伐ってもらうこと。山の見通しが良くなって、獣害対策にもなってくるかな。



荒島集落での伐採

5 木を伐採する



担当する事業者が経営計画に基づき、間伐を行います。薪にする木だけを抜き切りし、残した後継樹が健全に育つようにします。

4 森林整備の計画を立てる



所有者の同意が得られたら、森林を育てるために５年単位での経営計画を立てます。また、国・県の補助を活用するための手続きを進めます。

7 薪を乾燥させ、温泉施設で使う



加工した薪は、一定期間乾燥させた後、湯ら里・むら湯の薪ボイラー棟に運ばれ、給湯や浴槽の加温のための燃料として利用されます。

6 森林から薪ステーションへ



間伐した木をまとめ、杉沢にある薪ステーションに運びます。ここでは自動薪割り機によって薪にします。

只見牧野利用農業協同組合
藤田 善蔵（ぜんぞう）さん

昭和26年2月に組合を父ぐらいの世代が設立したんだ。父に付いていってよく山に登ったな。小学3、4年生のときにハルキヤマ（春木山）で、直径1メートルものブナの木をノコギリで挽いて、山で伐った木を載せてソリ乗りしたのは、同級生で自分くらいだったな。中学生のときにはスギ植えした記憶だ。

15年くらい前、退職して森林組合の手伝いで若い人らと山に入った。大槌山（おおつちやま）はあらかた歩いたもんだ。林業の仕事を嫌がらないように、仕事を続けてもらえるようにと教えたつもりだ。山に行くと気持ちがいいんだよな。

組合は作業できる人が減っていってますます難しくなるわ。大槌山を間伐したいと町から話があって、自分たちでは作業ができないから、誰も文句は言わなかったな。いまはスギの木が売れないから、薪エネルギー事業でやってもらって良かったと思うよ。



▶大槌山での伐採

森を育て、恵みを循環させるには 山と木に向き合うことから

現在、薪エネルギー事業は只見町森林組合が山での伐採、薪ステーションの管理・運営を担っています。事業に携わる皆さんにお話を伺いました。



只見町森林組合
代表理事組合長
山内 清示（せいじ）さん

山に手を加える

間伐は大きくなる木を残していく作業です。残した木が育つことで、山の保水力が向上し、洪水の緩和など防災にもつながります。

来年は、梁取集落の山林でブナの間伐を行う予定です。ブナは薪だけでなく、家具材としての活用も考えています。スギに加え、広葉樹林でも間伐を行い、あわせて植樹を行うことで針広混交林化を進めていきます。

間伐材を薪ステーションで加工

ナラも火力があって火持ちもいいので薪として取り扱っていますが、ナラ枯れの影響で数が足りません。他の材を集めて薪づくりを進めている状況です。

また、薪が乾きにくいことも課題です。乾燥させないと一定の水分量以下にしないと薪として使えないので、薪ステーションで束ねた薪が雨に濡れないよう試行錯誤を重ねています。

薪は個人向けにも用意しています。薪は欲しいけれど、自分で山に行って切るまでは難しい方にこそ利用してもらいたいです。また、薪にできる支障木の買い上げもしています。ぜひ薪ステーションをご利用ください。

1_間伐した木を自動薪割り機で薪にします。薪は重機で運び出し、束にして乾燥させます
2_薪の束を深沢の薪ボイラー棟に運びます。軽トラックからクレーンで吊るして保管用のラックに入れます





2　1

コラム

林業の現場から



只見町森林組合 参事

五十嵐（みきや） 幹哉さん

木をどう使うか

将来どのような山にしていくかを考えながら、どのような木を切って活用していくかが大切です。いまの山には伐期を過ぎた木が多いです。あまりにも太い木は需要がないのが現状です。適切な育ち具合の木も、切ったところで材価や経費の問題があり使い道がなかなかないのです。昔は木を植え育て家を建てようなど目的があって植えていました。ですが、今はせっかく植えた木でも使う目的がなくなっているので、利活用のひとつとして薪にしています。

山に目線を向けて

今は山をどのように維持していくかという段階。これ以上、山の環境が悪くならないように、いかに健全な山にするかが求められています。木を全て切って（皆伐）、再造林して育ててまた皆伐のサイクルが望ましいですが、コストなど難しい面もあります。課題は山積みですが、山の荒廃は進んでいきますから何かをしていかないと。薪にしたりブナを植えたり、様々な取り組みをしていくなかで、よりよい山の利活用を考えていけたらと思います。



4



3

3_チェーンソーで木を安全に、狙い通りの方向へ倒します。そのために2つの切り込みを入れます。写真は最初の切り込み「受け口」を入れている様子　4_倒した木は一定の長さで玉切りにします。雪の上など下が不安定な場所では、作業しやすいように木を重機で押さえます



只見町森林組合 作業員

馬場（あつし） 純さん

誘われて林業へ

同級生の三瓶晃（あきら）さんに誘われて、やってみようかなと思い森林組合に入りました。初めの仕事は細木などの刈り払い（除伐）をしたり苗を植えたり。その後、講習を受けてチェーンソーを扱えるようになりました。常に安全面に気を付けて、お互いに声掛けして作業しています。林業はきついイメージがあり、実際体力仕事で大変な面はありますが、働いている仲間が同世代の方が多く、みんな知っている人たちだったのでやりやすさを感じています。



第38回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会

特集

ふくしま駅伝

後編
只見町チームのタスキを繋ぐ、ランナー

練習を重ね、「チーム」になる

11月15日(日)に開催される大会に向けて、選手は週2回、夜の町下グラウンドで練習に励んでいます。今年初めて参加する選手、去年の自分を超えようと取り組む選手。ひとりひとりが目標を持ち、「チーム」として強くなっています。また、11月5日には結団式が行われ、選手が決意を新たにしました。

今回の特集では、監督の目黒英樹さんや町を代表して走る選手の皆さんの思いを聞きました。



酒井 健生(たける)さん
(只見中3年)

中学生、大人がともに厳しい練習を乗り越えてきました。応援してくださる皆さん、サポートの皆さんに感謝し、今までにないような上の順位を目指して、チーム一丸となり一生懸命頑張ります。



菊田 あさ美さん
(朝日小教)

3回目の出場で初めての1区。エースが集う区間なので、どこまでトップの選手に食いついていけるか、挑戦したいです。そして、町の代表として出場できることに感謝の気持ちを持って走りたいです。





2　1



3

1_中学生と大人が切磋琢磨　2_10月11日、只見町駅伝競走大会の日の午後、町下グラウンドでランニングアドバイザーの三津家貴也さんに指導してもらいました　3_太もも・お尻を使った「疲れない走り方」を教えてもらいました



監督　目黒　英樹さん

今年の只見町チームは、中学生を中心とした若さあふれるチームです。スローガンは「あいさつ・返事・笑顔」。走力だけでなく、日頃の生活からチームとしての成長を目指しました。また、来年暫定開通する国道289号八十里越でつながる三条市からも選手が参加し、新たな絆が生まれました。地域や世代を越えて心をひとつにし、一本のタスキに思いを込めて、最後まで諦めずに走り抜きます。チームを支えてくださる皆さんへの感謝を胸に、只見町の代表として精一杯頑張ります。

「ふるさと応援選手」として三条市出身の選手が参加します

今年のふくしま駅伝から、一部の市町村は仕事場がある人やふるさと納税をした人などを対象にした「ふるさと応援選手」が参加できるようになりました。人口減少や選手の確保が難しい市町村をサポートし、チーム編成をより行いやすくするために新設されました。

只見町チームには来年、暫定開通予定の国道289号八十里越を通じてつながる三条市出身の丸山真孝さんと内田善登さんが参加します。大会への意気込みを伺いました。



丸山（まさたか）　真孝さん

今回ふるさと応援選手としてふくしま駅伝を走る機会をいただき感謝しております。

当日は只見町と三条市、両地域の絆と皆さまへの思いをタスキに込め、福島の地を全力で駆け抜けたいと思います！応援よろしくお願いします！



内田（よしと）　善登さん

只見町とお隣の三条市を結ぶ八十里越の暫定開通を記念し、ふるさと応援選手として走らせていただきます。タスキとともに、両市町の思いをつなぎ、地域の皆さまに元気を届けられるよう、感謝の気持ちを胸に精一杯頑張ってまいります。


15


16


17



18

１０月３日、４日の２日間、只見線広場にて「自然首都・只見　水の郷うまいもんまつり」が開催されました。三条市や魚沼市、白河市など町内外から２２店舗が出店しました。商工会員、只見町建設業協会、電源開発によるPRブースも設置されました。

会場は“うまいもん”を食べた来場者の笑顔でいっぱい。まつりの様子を写真で紹介します。



19


20


21



22

15_みんなで乾杯　16_開会の挨拶を述べた目黒長一郎商工会長　17_桐蔭学園ミニ鉄道　18_鈴木美伸さん・関あつしさんも乾杯　19_ちびっこダンス　20_働く車に乗車体験　21_しゃぼん玉で遊ぼう　22_息の揃った歌声を披露したフルール　23_J-POWERブースで缶バッチ制作体験　24_赤塚畳店ブースでい草アロマ作り体験　25_富士園芸ブースで多肉植物の寄せ植え体験


23



24


25


1



2


3


4


5


6


7

1_三条凧協会の皆さんが六角巻凧をあげました　2_特製のブナりん凧　3_熱気盛んな商工会青年部神輿　4_盛り上がったあっけらかんマジックショー　5_とよのみさこさん、6_一条貫太さんの歌唱ショー　7_「ようこそ只見へ」歓迎花火

八十里越暫定開通を前に
会津と越後を結ぶ

水の郷うまいもんまつり


8


9


10


11


12

8_ステージのトップバッターを飾った只見音研の皆さん
素敵な舞を披露された、9_只見つくし会、10, 11_瞳の会、12_はぎの会の皆さん　13_ダンスで会場を魅了したQueenの皆さん
14_ハーモニカ奏者の平松悟さんは妻の結子さんと演奏しました


13


14

「私の地元応援募金」

明治安田より寄附

明治安田生命保険相互会社郡山支社坂下営業所から町に782，598円が寄附されました。明治安田生命保険相互会社では、社会貢献活動「私の地元応援募金」を実施しています。従業員から集まった募金に同社からの寄付金も合わせたもので、町へは8回目の寄附となりました。

町と明治安田生命保険相互会社は健康に関する連携協定を締結しており、健康チェックイベントや集会施設での健康増進・介護等に関する定期講座を実施しています。いただいた寄附は有効に活用します。ありがとうございました。



▲来庁された小菅所長（左）と社員の皆さん

企業版ふるさと納税

ハイパークリエーション東京より寄附

株式会社ハイパークリエーション東京（本社：東京都）から町に50万円の寄附をいただき、感謝状贈呈式を9月28日に町役場で行いました。渡邊隆代表取締役は「鉄道ファンで高校生のときに、只見線に乗って訪れた。当時見た景色が、今でも山里の原風景として心に刻まれている。只見線がつないでくれたご縁に感謝したい」と挨拶しました。いただいた寄附金は深沢温泉を中心とした地域づくりを進める「深沢プロジェクト」に活用します。



▲渡邊代表取締役（右から2人目）に感謝状が贈呈されました。右端は政策推進アドバイザーの利重和彦氏

ここから始まる未来へのしんか

りんどうサミットin福島

「第4回りんどうサミットin福島」が9月29日、只見町と南会津町で開催されました。南会津郡内のリンドウ生産者をはじめ、全国から約130人の生産者や関係者が出席し、栽培技術の向上や今後の産地振興に向け、意見交換が行われました。

当日は栽培ほ場の視察が行われ、生産者が日々の管理を説明しました。その後、季の郷湯ら里でサミットが行われ、南会津花き園芸組合の星和榮組合長が全国の生産者に向け、災害の経験や次世代への継承について話しました。目黒広信副組合長が南会津郡の生産の歩みを紹介しました。



▲地元生産者を代表して挨拶した星和榮組合長

一日も早い暫定開通に向け

国道289号建設期成同盟会が要望活動

国道289号建設期成同盟会は10月6日に福島県庁を訪問し、県の佐藤副知事、矢澤土木部長に要望書を提出しました。只見町から目黒副町長、佐藤議会議長が出席し、三条市の滝沢市長や三条市議会議長、ほか関係者が同席しました。

要望活動では、平石山トンネル（仮称）の一日も早い工事完了による全線開通や、暫定開通期間中における冬期間通行止めの柔軟な対応などを要望しました。出席者は八十里越公式ポロシャツを着用して要望活動を行いました。



▲佐藤副知事（中央左）に要望書を手渡しました

安全・安心な生活確保のため
県道小林・舘の川線改良促進期成同盟会が要望活動

県道小林・舘の川線改良促進期成同盟会は、10月9日に県南会津建設事務所や県庁、県議会を訪問し、県道小林・舘の川線の整備促進についての要望書を提出しました。

同県道は伊南川沿線の集落を結ぶ重要な生活路線であり、国道289号の代替性を持つ路線であるとともに、災害時には迂回路として役割を果たしてきました。要望活動では、熊倉～荒島間の冬期交通確保のため早期の防雪対策工事に着手すること、落石の恐れがあり幅員が狭い小林～亀岡間の未改良区間の整備促進を要望しました。



▲矢澤土木部長（中央）に要望書を手渡しました

一丸となり達成
死亡事故ゼロ1000日

10月12日午前0時に交通死亡事故ゼロが1000日となり、14日に町役場で只見町交通安全対策協議会への表彰伝達式が行われました。

福島県南会津地方交通対策協議会長の佐藤隆広県南会津地方振興局長が渡部町長に表彰状を手渡しました。佐藤敬南会津警察署長が祝辞を述べました。渡部町長は「県や警察、交通安全対策協議会、除雪に取り組まれる関係者、町民の日々の努力の賜物。国道289号暫定開通で交通量の増加が見込まれる。2000日、3000日と達成できるよう引き続き努力していく」と挨拶しました。



▲表彰状を持つ渡部町長（前列中央）

台湾とのご縁が形に
台南市北門区が来町

今年7月に覚書を締結した台湾の台南市北門区の区役所職員、学校長、小中学生らが10月15日に来町し、只見公民館で歓迎セレモニーが行われました。目黒副町長は「今回を節目に末永く交流し、友情を深めてまいりたい」と歓迎の言葉を述べました。北門区役所の陳嘉鴻主任秘書は「各分野で互いを深め、友好関係を発展させたい」と挨拶しました。セレモニーでは町の特産品を紹介し、互いの名産品を交換して交流しました。

セレモニー後、北門区の皆さんは只見小への訪問交流、マトンの焼肉、田子倉湖の遊覧など満喫されました。



▲北門区の皆さんから熱い気持ちを感じました

令和8年度緑化功労者
三瓶庄介さんが表彰

第73回南会津地方植樹祭における緑化功労者表彰に際し、深沢木工の三瓶庄介さんが表彰され、10月20日、工房にて表彰状が授与されました。

三瓶さんは伝統的なロクロ引きの技術を引き継ぐ数少ない木工職人のひとりです。木地師として50年以上にわたり、地域材を活用した木製品の製作に従事し、森林資源の循環利用の推進に寄与されました。森林と人とのつながりや心豊かな生活の実現に貢献された功績を称え、この度、緑化功労者として表彰されました。三瓶さんのつくる木皿は只見町伝承産品に登録されています。

三瓶さんは「16歳で木工の仕事を始めた。機械を揃え、道具や工房は自分の手で作った。まだたくさんの材がある。ここを継いでくれる人がいるといいんだがな」と話しました。


▲南会津産スギの木製賞状を持つ三瓶さん

第二期 只見ユネスコエコパーク管理運営計画が始動します

只見ユネスコエコパークの今後１０年間の管理や運営の方向性を定めた「第二期只見ユネスコエコパーク管理運営計画書」が令和８年（２０２６）８月４日に策定されました。

この計画書は、只見ユネスコエコパークが登録された平成２６年（２０１４）から令和６年（２０２４）までの１０年間を第一期とし、さまざまな活動から得られた経験や教訓を踏まえ、次の第二期において適切な管理運営を行うための基本指針を示したものです。令和７年（２０２５）早春より只見ユネスコエコパーク推進協議会（以下、推進協議会）が検討を始め、只見ユネスコエコパーク支援委員会での討議、令和８年（２０２６）４月から５月にかけて広く町民より意見を募集（パブリックコメント）し、８月４日に開催された推進協議会での協議を経て承認されました。内容を一部紹介します。

活動理念と目的・管理運営の基本方針

「豪雪に育まれた自然と生活・文化を守り、活かし、人と自然とが共生する物心両面で豊かな地域社会を創造する」

只見ユネスコエコパークの豊かな自然環境を保護・保全するとともに、持続可能な利活用を通じ、地域の伝統、文化、産業を継承し、地域の社会経済的な発展を目指し、“人と自然とが共生するモデル地域”として国内外に貢献することを目的として活動します。

この目的を達成するべく、今後取り組むべき課題に対応した各項目の基本方針と、具体的な管理運営の施策の方向性を定めています。

今後取り組むべき課題

❶自然環境・野生生物の保護・保全・管理

自然環境に配慮した社会インフラ整備事業の遂行、外来生物の影響に対するリスク管理、国道２８９号八十里越の道路工事などの大規模開発への対応など

❷学術調査研究・教育・文化活動

科学的知見や資料の収集・保存・活用、地域の特色ある文化・教育活動の推進など

❸持続可能な地域の社会経済的な発展

基盤的産業である農業の持続可能な振興・発展、森林資源の活用、エコツーリズムの推進など

❹地域の生活・文化の維持と継承

過疎・高齢化により急速に消失しつつある只見の生活や文化、地域知を継承し、時代の変化に即応した形で伝統的な資源利用を発展させる組織・団体と人材の育成や確保

「第二期只見ユネスコエコパーク管理運営計画書」は、ただみ・ブナと川のミュージアムで冊子を配布しており、只見ユネスコエコパークホームページで公開予定です。詳細はそちらをご覧ください。只見ユネスコエコパークの活動には町民の皆様のご理解とご協力が欠かせません。第二期管理運営計画をよろしくお願いいたします。



◀小学生が行うビオトープでの生きもの調査



◀小林早乙女踊りや梁取太々神楽などの伝統芸能

県内外チームと野球で交流
自然首都ただみカップ初開催 只見中が優勝

「第１回　自然首都・只見　中学軟式野球交流大会（ただみカップ）」が９月２１日、２２日、町下球場と只見中学校の２会場で開催されました。只見中野球クラブ保護者会が主催し、野球で選手の交流を図ろうと企画されました。県内外から９チーム、約１３０人が集まり、熱戦の結果、只見中野球クラブが優勝しました。

また、町教育委員会が大会運営を支援し、参加者全員に「只見高校で野球をやろう！」というメッセージや奥会津学習センターの資料を配布しました。


▲優勝した只見中野球クラブの皆さん

児童文学者・山内秋生が生まれた二軒在家で
シゴトシ・ユッコギに身を包み稲刈り


▲快晴のもと、稲刈りに汗を流す参加者の皆さん

９月２３日、二軒在家集落で児童文学者・山内秋生を慕う町民有志が稲刈りを行いました。参加者はめいわ縫子さんが提供したシゴトシやユッコギなどを着て稲刈りをしました。集落の方が稲の手刈りや束ね方を教えました。

田は文学作品の舞台にもなった八幡神社への道沿いにあり、所有者の矢沢英也さん（二軒在家）は「機械が入れない小さい田なので、活用してもらい大変良かった」と話しました。収穫されたもち米は、１１月１４日にただみ・モノとくらしのミュージアムで開催される山内秋生をテーマにした「秋燕祭り」で販売予定です。

福祉を学んで、つながる人の輪
「只見町社会福祉の集い」開催

「第４回　只見町社会福祉の集い」（只見町社会福祉協議会主催）が９月２６日、朝日公民館で開催されました。福祉をより身近に、見て学んで楽しんでもらおうと開催され、地域活動支援センターじねぇんとの方々が教えるブナの木工作や防災食づくり体験が行われました。

同時開催された地域福祉講演会「落語で終活」（中央公民館主催）では、行政書士で社会人落語家の生島清身さんが創作落語を披露し、終活について講演を行いました。



▲家族や人生について考える創作落語を披露された生島清身さん（中央）

八十里越暫定開通を記念

「河井継之助歴史バスツアー」開催

河井継之助ゆかりの地を巡る「歴史バスツアー」(只見町河井継之助記念館ボランティアガイドの会主催）が９月２６日に開催され、県内外から１０人が参加しました。

来年の八十里越暫定開通を控え、戊辰戦争や河井継之助の歴史を知ってもらおうと企画され、６名のボランティアガイドが解説しながら町内の史跡を巡りました。東軍・西軍宿舎跡や只見代官　丹羽族自刃の家、叶津番所などを回り、参加者はガイドの解説に熱心に耳を傾けていました。



▲長岡藩士　石垣龍三郎の墓で解説するガイドの目黒信さん(右)と解説に聞き入る参加者の皆さん

市町村対抗県ソフトボール大会

只見町チーム　須賀川市に５－８で敗退



▲適時打を放つ渡部倫選手



▲力投する馬場晶子選手

第１３回市町村対抗福島県ソフトボール大会は１０月３日、相馬市の相馬光陽ソフトボール場で開幕し、只見町は須賀川市と対戦しました。

１回に３点を先制するも、２回と３回に相手打線の猛攻で逆転されます。４回には反撃を見せ１点差まで追い上げましたが、再び点を奪われ５－８で敗戦となりました。

試合では五十嵐彪斗選手や小林拓矢選手が長打を放ち、投げては馬場晶子選手が粘り強い投球で、来年につながる戦いを見せました。

震災と復興を未来へ紡ぐ高校生語り部事業

小田隆史氏「防災地元学」を講演

令和８年度「震災と復興を未来へ紡ぐ高校生語り部事業」第１回講演会が１０月７日、只見高校で開催されました。東京大学大学院の小田隆史准教授が講師を務め、地域に根ざした防災のあり方を研究する「防災地元学」について講演されました。

その後、生徒が只見町の環境ではどのような災害があり、どのような備えが必要か話し合い、考えを発表しました。小田氏は「東日本大震災から１５年が経ち、次の世代にも震災を知ってほしい。地域の伝承から、災害や備えについて考えてほしい」と話しました。



▲只見高校生と地域の防災について意見を交わす小田氏(中央)

町内施設を巡ってみよう

こども園「親子ふれあいデイ」開催

ぶなのもりこども園のイベント「親子ふれあいデイ」が１０月８日、開催されました。親子が自家用車で町内を探索し、車の乗り方や降り方、公共施設でのマナーなどを身につけつつ、親子のふれあいを楽しんでほしいと企画されました。

参加した親子はぶなのもりこども園を出発し、ＪＲ只見駅、滝神社、Ｊ－ＰＯＷＥＲ只見展示館、ただみ・ブナと川のミュージアム、只見公民館を回り、クイズを解いてキーワードを集めました。子どもたちはこども園に戻ってから、おすすめの場所の絵を描いて振り返りました。



▲ただみ・ブナと川のミュージアムでは、ブナに関するクイズが出されました。「ブナはなんのなかま？」

三津家貴也さんがゲストランナーで参加

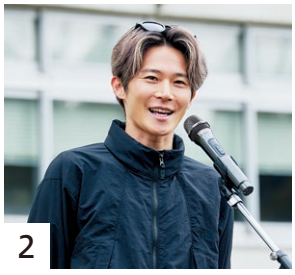
「只見町駅伝競走大会」開催



1



4



2



3

1_スタートする１区走者　2_開会式で挨拶された三津家さん　3_全体のトップでゴールした高田中学校Ａチーム　4_懸命に走った選手を労い、タスキを受け取ります

「第６０回只見町駅伝競走大会」は１０月１１日に開催され、町内外から３８チームが参加しました。また、今回は第６０回を記念し、スペシャルゲストランナーとしてランニングアドバイザーの三津家貴也さんが参加されました。開会式では只見中学校３年生の藤田歩夢さんと長谷川來々さんが選手宣誓を行いました。午前９時３０分にスタートの号砲がなり、全チームが６区間、１４キロのコースでタスキをつなぎ、完走しました。

各部門１位

部　門	部門１位チーム名
中学生男子	高田中学校A
中学生女子	只見中学校駅伝部
一般男子	会津学鳳高校
男女混成	会津中央病院
一般女子	只見うるわし☆レディース

稽古で養った「戦氣」を発揮　「河井継之助杯只見剣道大会」開催

「第１０回河井継之助杯只見剣道大会」（同実行委員会主催）が１０月１２日、町民体育館で開催されました。スポーツ少年団の保護者らが中心となり大会運営を行い、節目の第１０回大会を迎えました。今回も会津地区や本宮市からの参加者を含む約１００人の少年剣士が参加し、個人戦と団体戦に臨みました。

また、各団体の６年生は試合後に只見町河井継之助記念館を見学し、只見の歴史を学ぶとともに、交流して親睦を深めました。



▲攻めの気持ちを持って、相手との間合いをはかります

かるがもクラブ開催　ハロウィン撮影会



▲出来上がったおもちゃを手に仮装して記念撮影をしました

令和８年度第５回かるがもクラブが１０月１９日、保健福祉センターで開催されました。

参加した４組の親子は、始めに手遊び歌で遊びました。その後、ハロウィンのおもちゃとリース作りをしました。透明なビニール袋にオレンジ色のお花紙を詰めて、顔を付けてハロウィンのかぼちゃを作りました。また、紙皿にイラストを貼り付けてリースを作りました。子どもたちは出来たおもちゃや遊具で遊び、楽しい時間を過ごしました。

ブナりん健康ポイント　100ポイント到達おめでとうございます

平山久美子さん（小林）、角田岑子さん（小林）、栗木直枝さん（小川）、星晶子さん（塩ノ岐）が「ブナりん健康ポイント制度」で１００ポイントを達成しました。元気の秘訣として、久美子さんは「サロンやボランティア活動を継続すること」、岑子さんは「ヨガ、太極拳、卓球を楽しむこと」、 直枝さんは「グラウンドゴルフを楽しむこと」、晶子さんは「好きなことをしながら一日一日を大切に過ごすこと」とのことでした。

介護予防のコツは、社会との繋がりを保つこと！それを実践されている４名の皆さん、今後も元気で活躍してください。


▲平山久美子さん（小林）


▲角田岑子さん（小林）


▲栗木直枝さん（小川）


▲星晶子さん（塩ノ岐）



町民文芸

只見短歌会　令和八年十月詠草

扇風機のめくりくれしか日記帳閉じむとすれば空白の有り　目黒　富子

お手玉を子らと遊ぶを頼まれし我も夢中になりて過ごすも　関谷登美子

色づきのはじめのもみぢ見つけたる赤くなったと告ぐる子のこゑ　立花　奏音

平日の朝来し孫に訳問へば学級閉鎖と胸張りて言ふ　新国由紀子

収穫の終はりし朝の田の畔に白鷺降りて餌を啄む　渡部ヨリ子

只見俳句会　十月定例会

竜胆（りんどう）に励まされしや冬覚悟　真理子

客来しと思えば銀杏落ちる音　睦子

赤とんぼ窓の隙間に迷い住む　湯上がりに一人眺むる秋の月　尚幸

津軽路の真っ赤な林檎描く画帳　雨強き二百二十日の車窓かな　理恵子

ペンキ塗る屋根の回りは赤とんぼ　雲の下間近に見ゆる紅葉かな　恒夫

亀虫の戸隠れの術見事なる　吾が村を一望しての秋思かな　一恵

虫すだく昔語りの鬼ばんば　靴投げに夢中なる子等山装う　修一

秋高し傘二本持つ通学児　鈴虫と一緒に届く宅急便　信

秋澄むや兵眠る砦かな　小諸なる藤村偲ぶ鰯雲　都

畑隅にどさと捨てある秋のなす　秋の暮れもうすぐ母の年となる　味代子

犬走り小雨に光る苔の花　荒屋（あばらや）の折り折りきしむちちろ虫

Information 今月のお知らせ

電話番号

総務企画課
総務係　企画係　財政係　☎82-5210
自然首都推進室（ただみ・ブナと川のミュージアム）　☎82-5963　FAX 72-8356
町民生活課
町民税務係　☎82-5110
生活安全係　☎82-5100
保健福祉課
保健係　☎84-7005
福祉係
成年後見センター　☎84-7010
農林建設課
農林係　☎82-5230
建設係　☎82-5270
交流推進課
観光交流係　商工労働係　☎82-5240
会計室　☎82-5120
只見保育所　☎82-2219
認定こども園　☎84-2038
明和保育所　☎86-2249
朝日診療所　☎84-2221
（歯科）　☎84-2612
こぶし苑　☎84-2101
只見公民館　☎82-2141
朝日公民館　☎84-2111
明和公民館　☎86-2111
教育委員会　☎82-5320
学校給食センター　☎84-7180
議会事務局　☎82-5300
農業委員会　☎82-5230

税 今月の納期

11月25日までに納めましょう

●町県民税（3期）
●国民健康保険税（5期）
●農集排使用料（11月分）
●介護保険料（5期）
●後期高齢者保険料（4期）

お知らせ

ふくしま復興とSDGsを考える県民シンポジウム2026

震災と原発事故から15年が経過する中、今後の復興をさらに前進させるために何が必要か、ふくしまの未来を考える県民シンポジウムを開催します。参加には事前申込が必要です。

【日時】
令和8年12月12日（土）
午後1時～3時

【会場】
FUTATABI FUTABA FUKUSHIMA
双葉郡双葉町大字中野字宮ノ脇1番1

【参加料】
無料

【定員】
130名（先着順）
オンライン配信あり

【登壇者】
浜通り、中通り、会津の各地域で活躍している事業家等。只見町からも登壇予定です。

【申込方法】
・ホームページから
www.fukko-fukushima.jp
・電話から
☎024-961-9630
事務局（株）企画室・コア

※オンライン配信の視聴は申込不要です。

【その他】
SDGsの推進に向けた取組の発表・展示も行います。

【主催】
福島県

【後援】
復興庁、福島大学、アカデミア・コンソーシアムふくしま、福島県市長会、福島県町村会、福島民報社、福島民友新聞社、NHK福島放送局、福島テレビ、福島中央テレビ、福島放送、テレビユー福島、ラジオ福島、ふくしまFM

●お問合せ先
☎024-521-7129

ホームページはこちら

放送大学 入学生募集のお知らせ

放送大学は、4月入学生を募集しています。

10代から90代の幅広い世代、約8万4千人以上の学生が、大学を卒業したい、学びを楽しみたいなど、様々な目的で学んでいます。

授業には3つのスタイルがあり、BS放送やインターネットで視聴する、また講師から直接受ける授業があります。

心理学・福祉・経済・歴史・文学・情報・自然科学など、300以上の幅広い授業科目があり、1科目から学ぶことができます。

卒業すれば学士の学位を取得できます。

1単位の授業料は6千円（入学料は別）。半年ごとに学ぶ科目分だけの授業料を払うシステムです。

全国にキャンパスにあたる学習センターやサテライトスペースが設置されており、面接授業（スクーリング）の開講やサークル活動などの学生交流も行われています。

資料を無料で差し上げています。お気軽に放送大学福島学習センターまでご請求下さい。出願期間は、第1回は2月28日まで、第2回は3月15日まで。

●お問合せ先
放送大学福島学習センター
☎024-921-7471

あなたの好きな「図柄ナンバープレート」のデザインを投票しよう

会津地域１７市町村では、地域の魅力を全国に発信するため、会津版図柄入りナンバープレートの導入を目指しています。

このたび、応募いただいた図柄デザインの中から、図柄ナンバー選考委員会にて最終候補となる３作品を選定し、オンラインでの住民投票を実施します。

この住民投票の結果を踏まえ、図柄ナンバー選考委員会で最終的な提案デザインを決定し、国土交通省へ提案します。

地域の魅力を表現した図柄を選ぶ大切な機会ですので、皆さまのご参加をお待ちしています。

- **投票期間**：令和８年１１月２日(月)～１１月３０日(月)
- **投票できる方**：会津地域にお住まいの方
  （お一人につき１回まで）
- **応募方法**：特設ホームページにアクセスいただき、投票フォームから投票ください。

※実際のデザインはカラーです。



▲赤瓦の鶴ヶ城



▲会津塗



▲会津の恵み

●お問合せ先
只見町役場　総務企画課企画係
☎０２４１－８２－５２１０
会津総合開発協議会　事務局
☎０２４２－２４－６３１２

▲お問い合わせフォームはこちら

▲会津ナンバー特設ホームページはこちら

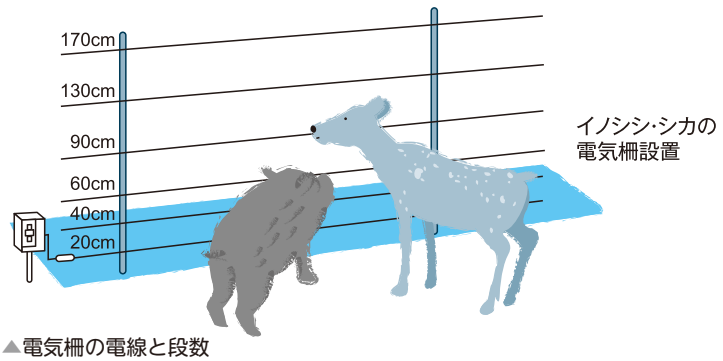
鳥獣被害対策の現場から「ニホンジカ対策」

ニホンジカ被害の現状

福島県内において昭和５３年はシカの生息域が確認できませんが、平成１５年の調査で南会津郡内を中心に確認され、平成２６年には県の西側で南から北に生息域が拡大しています。県では計画に基づく目標捕獲頭数を達成しているにも関わらず、シカの生息数、生息密度は増加しており、生息域が拡大する急増期に入っていると考えられます。町内でもシカによる水稲の踏みつけや食害が発生しています。

ニホンジカ被害の対策

イノシシやシカに侵入防止柵から侵入される場合、多くは地面との隙間から侵入されます。イノシシ同様、電線の間隔を２０㎝以下とし、跳躍力もあるため柵の段数は３～５段程度とします。多獣種に対応した複合柵として設置することで、侵入防止効果を高めつつ、設置や管理の負担を軽減させることが大切です。



▲電気柵の電線と段数
設置当初から防草シート（可能なら通電性のもの）の利用が望ましい
『野生鳥獣被害防止マニュアル【総合対策編】』(2023農林水産省) p. 28より引用

参考文献　・『野生鳥獣被害防止マニュアル【総合対策編】』(2023) 農林水産省
・『福島県ニホンジカ管理計画（第３期）』(2026) 福島県

●お問合せ先　農林建設課農林係　☎０２４１－８２－５２３０

只見町商工会
連携企画

ただみの今を支える人たち

有限会社只見重車輌　代表取締役社長　**鈴木　聖**さん


▲除雪機を前にする鈴木聖さん

工事や除雪で使う重機を取り扱う「有限会社只見重車輌」。今回は、代表取締役社長の鈴木聖さんにお話を伺いました。

―会社について教えてください

「昭和48年にコマツ福島会津支店只見出張所兼只見重車輌として設立しました。現在は整備士5人、事務スタッフ3人で、建設機械の整備やリースを行っています。今の時期は通常業務に加え、冬に備えて町の除雪車の点検、車検整備も重なるため、年間で最も忙しいです。除雪が安全に行えるよう、1台1台しっかりと整備しています」

―この仕事を始めたきっかけは？

「学生時代はミュージシャンなど現実味の無いような将来の夢しかありませんでしたが、只見高校の恩師の勧めで家業を継ぐため、自動車整備の専門学校に行きました。最初の授業で班に分かれ、夜遅くまで暴走族みたいなクラスメイトと、車からエンジンを脱着し始動させました。その時の達成感ですっかり整備が好きになりました。その時のメンバーとは今でも連絡を取り合う仲です。

卒業後はコマツ福島の支店で10年ほど働き、只見に戻ってきました。昨年、父から社長を引き継ぎました。父は会長として今も働いています」

―どんな思いで仕事に取り組んでいますか？

「工事現場を止めないことを優先し、臨機応変に機械の応急処置などをできるようにしています。一番はケガ、事故の無いように、状況を正しく判断することが大事だと思います。機械も日々進化し、今はコンピュータ制御が増えてきました。認識不足や勘違いで迷惑をかけないよう、日々勉強して、的確な処置やアドバイスができるように心がけています」

―只見で働いていて感じていることは？

「除雪は只見の暮らしや交通を守るために欠かせません。また、雪崩や大雨の被害が起きることもあり、復旧やインフラ整備に携わる方々の役割も大きいと感じています。機械の整備を通じて、除雪や工事に携わる方々を支え、土台になれればと思っています」

―これからの目標を教えてください

「高齢化が進む中、機械の動かし方もどんどん変わっているので、機械をしっかりと理解し、分かりやすい言葉で説明できるようにならなくてはと感じています。

また、集落の草刈りや除雪など、機械を活用することで人出や作業する方の負担を減らせる場面もあります。地域の方々に合った機械の使い方を提案し、有効な活用方法を広めていければと思います」

○有限会社只見重車輌
住所：只見町只見字町下2592－13
TEL：0241－82－2501

11月下旬～12月のイベント情報

11月1日(日)～翌年2月28日(日)
「奥会津体験博覧会 せど森の宴」

奥会津地域の各地で「奥会津ならではのモノ」を活かした体験型プログラムが行われます。プログラムごとに内容が異なりますので、詳細は「せど森の宴」公式WEBサイトをご覧ください。

【WEBサイト】
https://okuaizu-sedomori.com/
（下記二次元コードからもアクセスできます）

【問合せ先】
せど森の宴運営事務局
株式会社SATORU
（TEL050－1724－0621）

12月19日(土)
只見スキー場 オープン

大自然の中の小さなスキー場。子どもから大人まで楽しめるファミリーゲレンデで、スキーやスノーボード、雪国ならではの遊びや体験を満喫してみませんか。

【住所】福島県南会津郡只見町只見字田ノ口24
【問合せ先】TEL0241－82－2304

※編集時点においての開催予定になります。詳細は各問合せ先にご確認ください。

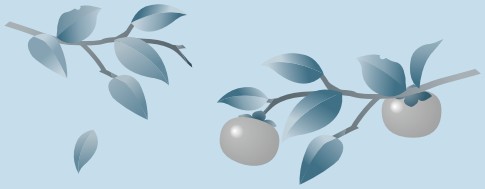


町民の消息

（9月26日～10月25日届出分）敬称略

■おくやみ申し上げます

酒　井　サヨ子	73歳	亀　岡
目　黒　芳　雄	78歳	只　見
梁　取　ムツ子	100歳	小　林
吉　津　民　子	93歳	黒　谷
山　中　くみ子	62歳	黒　谷
菊　地　ミサ子	94歳	梁　取



※「町民の消息」欄に掲載を希望されない方は、届出のときにその旨をお伝えください。

人のうごき

令和8年10月1日現在

人　口	3,331	（－13）
男	1,668	（－　6）
女	1,663	（－　7）
世帯数	1,453	（－　1）
高齢化率	48.7％	

※高齢化率とは、65歳以上の人が人口に占める割合です。

転入 2　転出 9　出生 0　死亡 6

あとがき

▽秋が深まってきて、朝夕は冷え込むようになりました。寒暖差の影響か、久しぶりに風邪をひきました。町内でもインフルエンザが流行っているようです。皆さま、体調管理には十分お気をつけください。

▽あと1か月もしないうちに雪が降り始めるでしょうか。あっという間に冬ですね。早く元気になって冬への備えを進めたいと思います。

（滝沢）

明和公民館図書紹介

おすすめ新着図書

明和公民館図書室
☎86-2111

★誰何（すいか）



【著】伏尾美紀（光文社）

東京都内で松川美和という女性が孤独死した。その報を親族に伝えた警察官は衝撃を覚える。松川は二年前に亡くなったというのだ。では、この人は誰なのか？北海道警察をやめ、児童相談所で臨時職員として働く新内由紀。ある日、警視庁の刑事から、松川の部屋に警官時代の新内の名刺が残されていたと聞く。彼女のことなど皆目知らないのに。同じ頃、石狩で起きた事件を捜査していた同警の砂本修二も、被害者宅でかつての先輩、新内の名刺を見つけた。刑事たちが追う複雑に交錯した無数の事件。その道行は、やがて一本の糸を紡ぎ出していく。

★パンどろぼうとさすらいラーメン

【著】柴田ケイコ（KADOKAWA）



とっても寒い“ぶるぶるじま”にやってきたパンどろぼう。

できたてのパンをふるまおうとパン作りをはじめますが、窯の扉をあけようとした、その瞬間…

＼＼＼ボフ――――ン／／／

パンが作れずこまっているところへさっそうと現れたのはいったい、誰――――？

ほかほかのパンとあつあつのラーメンが織りなす、熱血ハートフルストーリー開幕！

「パンどろぼう」シリーズ待望の最新刊！

☆明和公民館ではリクエストも随時受付していますので、ぜひご利用ください。

町民憲章

1、ゆたかな緑ときれいな水をまもり美しい町をつくりましょう
1、互いに助け合い親切をつくし楽しい町をつくりましょう
1、産業をおこしみんなで働ける豊かな町をつくりましょう
1、教養を深め心と体をきたえ文化の町をつくりましょう
1、きまりを守り良い風習を育て住みよい町をつくりましょう



ブナセンター・モノとくらしのミュージアムだより vol.1

ふるさと館田子倉は１０周年を迎えます

只見町ブナセンター付属施設の「ふるさと館 田子倉」は、田子倉ダム建設時にダム湖に沈んだ田子倉集落の自然と生活・文化を伝える資料館です。

この施設は、田子倉集落出身の皆川弥（わたる）さんが父親の文弥さんの残した民具や資料を展示するために、私設の資料館として２００４年に開設しました。弥さん没後の２０１６年に只見町が遺志を受け継ぎ、資料館を取得、整備して公開しています。

館内には当時実際に使用していた狩猟、漁撈、生活民具などが展示されており、自然環境や天然資源を持続可能な形で利活用していた水没前の集落の暮らしを知ることができます。田子倉出身者の故郷への思いを綴った手記なども展示されている他、これまで公開していなかった資料も一部複製し、ご覧いただけるようになりました。

今年１０周年を迎えるこの機会に、桃源郷と呼ばれた田子倉集落の歴史にふれてみませんか。ご来館をお待ちしております。

ふるさと館田子倉（火曜日休館）
只見町大字只見字田中１２９９番地
TEL/FAX ０２４１－７２－８４６６



水没前の田子倉集落



只見町ブナセンターからのお知らせ

企画展「アリからクマまで－タネをまく動物」

期間：４月４日(土)～令和９年３月２９日(月)　　場所：ただみ・ブナと川のミュージアム

内容：自ら動くことができない植物は、動物の力を借りてタネを遠くに移動させ、子孫を残してきました。本企画展では、その仕組みなどについて、全国の研究者が解説します。また、大人から子供まで楽しく理解できるよう工夫をしましたので、ぜひ見学にお越しください。

「只見町ブナセンター通信」は２０２５年４月から連載してきましたが、今月号からは「ブナセンター・モノとくらしのミュージアムだより」としてリニューアルし、只見町の自然や文化、歴史や民俗、各施設の活動などを幅広く紹介します。

※この広報紙は再生紙を使用しています

※環境にやさしい大豆油インキを使用しています

■発行／只見町　〒968-0421 福島県南会津郡只見町大字只見字町下2591-30
■編集／総務企画課総務係　https://www.town.tadami.lg.jp/　☎0241 (82) 5210